様式7(市教委報告用)

三鷹市教育委員会　様

5三鷹南浦発第162号
令和6年3月8日

校長　門野　吉保
(公印省略)

令和5年度　連雀学園　三鷹市立南浦小学校　　学園・学校評価報告書

このことについて、下記のとおり報告いたします。

記

学園評価　※学園内で統一記述

今年度明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること

②重点課題
●連雀学園の子どもたちに育てたい力を、学園、保護者、学校で共有し、教職員の当事者意識を高めるとともに、CS委員や地域、家庭と協働する。

来年度の重点課題を解決するための改善方策

③　改善策
◎連雀学園構成メンバーによる熟議を行い、学園・学校の教育実践を振り返り、目標や取り組みなどの重点化を探り、新たな指針を作成する。

学校評価　※学校ごとに記述

今年度明らかになった課題　※「第2回学校関係者評価」を経て記述

○児童が楽しく学び、「わかる・できる」を実感できるような授業改善
○児童の体力向上
○学校農園の活用など特色ある教育活動の推進

来年度の改善方策　※「第2回学校関係者評価」を経て記述

○目標(めあて)の提示は定着してきたので、児童が学びを実感できる「振り返りの時間」をジュ実させるなど学園・校内研究の工夫・改善する。
○密集を避けて実施していた縄跳びやマラソンなどの活動を一斉に実施することで校庭を使える時間や活動する機会を確保する
○学校農園とともに、図書館や大型スーパー、商店など地域の特色を取り入れた総合的な学習の時間を工夫していく。

取組項目	今年度の重点目標	成果	課題と改善方策	取組項目	学校の経営目標（中期目標）	今年度の重点目標（単年度目標）	今年度の重点目標を達成するための具体的方策	第1回評価 取組	第1回評価 成果	第2回評価 取組	第2回評価 成果	自己評価（第2回）	学校関係者評価（第2回）
コミュニティ・スクールの運営	・スクール・コミュニティの創造に係る内容 ・コミュニティ・スクールの運営に係る内容 ・地域との効果的な連携に係る内容（関係機関との連携、教育ボランティア等）	○3部制への取組みは、各校進んでおり、施設利用を一定程度開始することができている。 ○CS委員会での熟議を通して、子どもたちに育てたい力を話し合い、必要な取組みを具体的に考えることができた。 ○学園ニュース「ジョイナス」の計画的な発行と連雀文化祭「笑顔講祭」の実施を実現することができた。	●施設利用する人数が適正となるよう、支援員を確保する。新たなプログラムの開発も視野に入れていく。 ●子どもたちに育てたい力は継続して、話し合っていく。連雀文化祭は、継続するための課題と対応を明らかにしていくことが必要である。 ◎それぞれの施設のニーズと、それに見合う支援員数やプログラム等を明確にするようにして、運営及び評価・改善をしていく。 ◎CS委員会で大切にしてきた熟議の継続やおとな熟議の実施により、学園の教育実践の改善を図る。文化祭等の取組みについては、早期に計画・実施できるようにする。	人間力・社会力の育成	コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育を推進し、9年間の義務教育の学びと15歳の姿に責任をもつ学校	①小学校での教室開放の実施、中学校での地域の方による部活動の試行。	①完全実施となる6月1日までの移行期間を設けるとともに、毎月開催される調整会議に置いて運営会社と学校、保護者による相互理解を図る。	4	未実施	4	1	教室・校庭開放に参加する児童は、平日50～70名程度と登録者のうち1割強であった。実際には、学童クラブに通っている児童を含めると、多い日で100名、2割を超えている。また、イベントのある日は100名を超えることもある。引き続き、調整会議などを通して、児童の居場所のひとつとして選択肢に入るよう連携していく。	妥当：21件、妥当ではない：0件、無回答：3件
					o	②連雀学びのスタンダードの改訂 ③連雀ジョイナスの活動を計画的に実施する。	②CS、CS委員と教員や保護者、児童会・生徒会などの熟議を連める。 ③年度当初に連雀ジョイナスの計画を立て、すすめる。	未実施	未実施	4	1	CS委員対象アンケートにおける回答数が16名。そのうち「満足している」「やや満足している」という肯定的な回答は10名、「どちらともいえない」のは2名であった。満足していないという回答の理由は、思うように関われなかった、他校のことについてわからないとなっており、CS委員の役割についてもっと理解できるように、委員会での説明や熟議を充実させていきたい。	HOHO
小・中一貫教育校としての教育活動	・三鷹市小・中一貫カリキュラムの実施・検証に係る内容（学園研究等） ・小学校間での授業交流 ・乗り入れ授業 ・児童・生徒の交流活動	○学園の交流活動を予定通りに実施し、児童・生徒に満足感や学園への所属感を実感させることができた。 ○学園研究は、連雀学園一貫カリキュラムに則り、学園研究テーマの実現へ向けて、計画どおり実施することができた。 ○乗り入れ授業は、ほぼ予定通り実施することができている。	●交流行事の内容については、4校の状況に応じて、常に見直しを図っていく。また、小.小の交流も計画的に実施していく。 ◎今年度実施する母校訪問形式のたてわり活動や小小の交流行事について、計画的に実施できるよう、推進委員会で早めの提案をしていくようにする。	学園・学校運営	○コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育を推進し、9年間の義務教育の学びと15歳の姿に責任をもつ学校	①小・小の交流、小・中の交流活動を実施する。	①4・5年生の選択交流学習、6年生の一中体験、1年生から中学校3年生までの連雀たてわり活動を実施する。	3	未実施	3	4	特に選択交流学習については、楽しみにしている児童が非常に多い。普段とは違う先生や中学校の先生に教えてもらえること、学習内容が教科指導にとらわれていないこと、習い事や知り合いに再開できることなどから、児童は連雀学園を意識しやすい。(95%)	妥当：20件、妥当ではない：1件、無回答：3件
					q	a5	c1	－	－			MI	MIMI
（知）確かな学力	・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な推進　・三鷹市小・中一貫カリキュラム、三鷹「学び」のスタンダードの活用による授業力向上　・授業のユニバーサルデザイン化による分かる授業の推進　・主体的・対話的で深い学びの推進　・GIGAスクール構想　・みたか地域未来塾をはじめとした補充学習等	○学園の研究テーマ「知的コミュニケーションを活かした学習指導の工夫」に向けて、4校各々が授業改善に向けた取組みを推進できた。ICT機器の活用や「考える授業」の実現の視点からも、一定の成果が見られた。 ○算数習熟度別指導や「地域未来塾」など、基幹学力の定着・向上を目指した取組みも、計画的に実施できた。	●到達目標に達していない児童・生徒や学力調査等に肯定的でない児童・生徒への理解と指導の充実を継続して行っていく。 ●ICT機器の活用については、ほぼできてはいるが、積極性については、まだ個人差が見られる部分もある。 ◎全国学力学習状況調査や市の学力テストを活用して、全体の傾向と個々の様子を把握し、引き続き授業改善に努める。 ◎ICT機器の活用の好事例を、学園研究や各校の研究・研修のなかで共有し、積極性を高めていく。	小・中一貫教育校としての教育活動	小中一貫カリキュラムに基づく学習指導や学園研究を通して、子どもたちの確かな学力の向上を図る。	○教員や児童がICT機器を活用した個別最適な学びと、考えを高め合う協働的な学びの実現を図るための授業改善を進める。	○学園・校内研究において、本校における国語と算数の学習スタンダード(案)を作成する	1	未実施	4	3	学園・校内研究を計画通り実施できた。また、東京教師道場に所属する教員の授業公開に全教員が参加し、研究の成果を共有するなど、授業改善に取り組むことができた。その結果、授業が楽しいと肯定的に回答した児童は75%を超えた。	妥当：20件、妥当ではない：0件、無回答：4件
					s	a7	○タブレット端末や単焦点プロジェクター、デジタル教科書などICT機器を活用した個別最適な学びとグループでの話し合い活動など協働的な学びを実践する。	2	未実施	4	3	すべての教員がタブレット端末を活用した授業に取り組んだが、積極性については教員間に差がある。今後はデジタル教科書の活用についても積極的に取り組ませたい。(75%)	妥当：20件、妥当ではない：1件、無回答：3件
（徳）豊かな人間性	・考え議論する道徳 ・いじめの早期発見・早期解決 ・デジタル・シティズンシップ教育 ・情報モラル教育 ・生活指導等	○学園共通でHyper-QUを導入して学級づくりに活かし、よりよい人間関係づくりを進めることができた。 ○小学校各校通常の学級における児童への支援策について検討し、個に応じた授業展開を実施している。	●Hyper-QUの導入により、児童・生徒の状況の把握はできたが、学級集団作りや人間関係づくりに生かしていく工夫については、今後も各校で推進したり、学園で共有したりする必要がある。 ●通級拠点校との連携により、引き続き支援策の検討や個に応じた授業展開に取り組んでいく。 ◎学園生活指導部や研究全体会での研修、学園研究での実践の共有を深めていく。 ◎学園(小学校)合同でのプラン研修等、実践につながる研修の実施。	児童・生徒の学力・健全育成	通常学級と教育支援の連携しすべての児童が安心して過ごせる学級・学年集団づくりを進めるとともに、学校農園での活動を通して子どもたちに豊かな心を育む。	○校内通級教室拠点校や難聴言語学級設置校の強みを生かして、特に配慮を要する児童の支援・指導を明らかにする。	○学園・校内研究において、特別な配慮を要する児童の手立てを明らかにする。	4	未実施	4	4	通級支援教室や難聴言語学級設置校の強みを生かして、通常の学級における支援策を検討し、個に応じた授業展開を実施することができた。一人ひとりの児童を大切にする姿勢をますは教員がもち、児童に示し、児童が自分と同じように友達を大切にできるように、引き続き、取り組んでいく。(60%)	妥当：19件、妥当ではない：1件、無回答：4件
					u	○新たな学校農園での取組を軌道に乗せる	○各学年2回の種まきや収穫作業を計画どおりに実施するとともに、取組の一部を農業祭で発表する。	1	未実施	4	4	園芸委員会を中心に児童の満足度は非常に高かった。学校農園の田中さんのお力添えをいただき、猛暑で作物の成長に遅れなどはあったが計画どおり実施することができた。また、計画以外でもさつまいものやスイカ、いちご、ブロッコリーなども育てることができ、栽培活動を通して児童の豊かな心情を耕すことができた。(95%)	妥当：20件、妥当ではない：1件、無回答：3件
（体）健康・体力	・基本的生活習慣の確立 ・体力向上、健康にかかわる内容（食育）等	○体力調査の結果からは、三鷹市の平均をほぼ上回り、改善が見られた。授業改善の成果が見られている。また、体を動かしたり、運動したりすることが好きな児童・生徒の数も一定数見られる。 ○調査への回答から、児童・生徒が健康な生活や体力づくりに対しての意識をもっていることも確認できた。	●児童・生徒の運動に対する意欲や関心をさらに高めたり、実際に運動する機会を増やしたりする。 ●健康な生活と体力向上への意識を家庭と連携して高めていく。 ◎学園合同あるいは連携した運動の強化週間や意識付けを高める取り組みを再開していく。 ◎体力調査の結果を活かした授業改善の継続と、家庭への周知の方法の工夫をしていく。		運動・スポーツの楽しさを実感できるよう体育の授業改善と、体育的活動に取り組む。	○年間を通した体育的活動を樹実させる。	○各学期にマラソン週間と縄跳び、体育的活動を計画し、実践する	1	未実施	4	3	体力調査の結果は、男子は4年生、女子は3，4年生で三鷹市の平均値を超えるなど、昨年度より改善された。マラソンや縄跳びについては、計画通りに年間を通じて取り組むことができた。また、11月からは朝の校庭開放が始まり、毎日、元気よく走り回っている児童が一定いる。(68.9%)	妥当：20件、妥当ではない：1件、無回答：3件
					w	b2	c7	－	－				YOYO
特色ある教育活動	・特色あるキャリアアントレプレナーシップ教育 ・デジタル・シティズンシップ教育 ・現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成 （伝統や文化に関する教育、主権者に関する教育、法に関する教育など）	○キャリア・アントレプレナーシップ教育は、各校の特色を生かして展開することができた。 ○児童会・生徒会活動の充実や熟議との連携、学校での意見集約など、児童・生徒の意見を活かした取組みが、各校で推進された。児童・生徒の満足度も高かった。デジタル・シティズンシップ教育を反映させ、連雀学園でのタブレットルールの見直しも始められている。	●児童・生徒の意見を活かした児童・生徒会の活動を継続していく。また、児童・生徒会に属さない児童・生徒の意欲の向上。 ◎各校での意見集約を引き続き行うこと、児童・生徒会での意見交換や学園での情報共有と、連携を強化する。また、CS委員会など、地域諸団体の主催する活動への参加を促す。	コミュニティ・スクールの運営	3年間かけて、学校や児童、地域の実態や特色を踏まえた、新たな教育活動を創造する。	○学校や児童、地域の実態や特色を踏まえた、新たな教育活動を創造する。	○各学年1つは、地域の人財、施設、環境を活かした新たな取組みを試行実施する。	未実施	未実施	4	4	学校農園や市立図書館、地域のお店や大型スーパーへの見学など本校周辺の施設や人財とのつながりを意識した取組みを、SC推進員の力を借りながら新たに構築することができた。今後も地域の人財や地理的要因などを生かした特色ある教育活動を構築していく。(95%)	妥当：20件、妥当ではない：1件、無回答：3件
					y	○子供の権利条約の趣旨を踏まえて、特に意見表明権を児童及び教職員に理解させる。	○3月の南浦サミットに向けて、児童や教員、保護者と議論する場を設ける。	1	未実施	4	4	今年度の南浦サミットは4年生代表と各委員会の委員長を加えて、「夏の暑さ対策、冬の寒さ対策」について様々な意見を集め、検討した。特に6年生はSDGsの観点からも省エネルギーやごみを出さないことも考慮し、自分たちでできることを考えることができた。(97%)	妥当：20件、妥当ではない：1件、無回答：3件
教育の質の向上を目指した学校の働き方	・退校目標時間、ノー残業　デー等の設定 ・教員のタイムマネジメント力の向上 ・人財の効果的活用 ・地域行事等への参加の工夫等 ・部活動の適正化	○退校目標時間、ノー残業デーの設定等、各校実施し、超過勤務時間の減少に努め、一定の成果を見ることはできている。 ○専門スタッフの配置とその活用、校務支援システムの活用が、「当たり前」になり、効率的な会議運営につなっがている。	●在校時間や超過勤務の時間には、ばらつきがある。時季による増減があったり、個々のもつ業務の内容に左右されたりする。 ◎校務の均等化を図るとともに、繁忙期を見据えて業務の先取りをするなど、タイムマネジメントを意識した働き方に改善させ、児童・生徒と向き合う時間を確保するようにしていく。	学校の働き方改革	組織的な課題解決力の育成を目指すとともに、教職員の働き方改革を推進する	○資料のスリム化、会議の精選、PC回覧板の活用を徹底する。	○1カ月の時間外勤務時間を45時間以内を目標にする	4	未実施	4	2	超過勤務時間については、平均すると11月は36.3時間と、6月の45．3時間に比べて減少した。また、45時間を超えた教員の割合は11月は30%弱と、6月の42%に比べて大きく減少した。一方で、70時間を超える教員がいたことから、業務の均等化や組織的な業務の進行などについて改善を図り、教員が児童と向き合える時間やの裁量の時間を増やしていく。	妥当：21件、妥当ではない：0件、無回答：3件
					a1	b6	d2	－	－			RE	RERE